

“オンリーワン”の危うさ

今回の地震と津波、原発の
もたらした被害がこれからの
経営に与えることは何か？
私なりに考えたことを述べ
て年度初めの挨拶としたいと
思います。



酒井代表

3月11日の東日本大震災で
被災された方には心よりお見
舞いを申し上げます。
特にインテグレーション株式会社、
株式会社大昌電子の岩手工場
の従業員には被災された方も
おられ、復興と共に元気にな
られることを祈るばかりです。

第一は日本が得意なエレク
トロニクス分野でアメリ
カが進めたグローバル化でア
メリカを凌いでいたことが判
ったことです。1980年代
の日本は世界のトップに躍り
出る勢いでした。その後の日
本はバブル崩壊で失われた10
年否20年を継続中です。アメ
リカは日本何するものぞとグ
ローバル化出来ない日本を侮
りましたが、どっこい日本は
世界への部品供給でグローバ
ル化を達成していたことが今
回世界に認識されました。
第二はこのグローバル化を
支える物作りのサプライチェ
ーンにBCM（事業継続）上
の思いもしない弱点が表出し
たことだと思えます。
原材料が入りできないれば
物は作れません。部品が入手
できないれば製品はできませ
ん。電気が来なければすべて
が止まります。

今後は事業継続の視点（B
CM）が重視されると思われ
ます。
具体的には仕入れ先の複數
化、代替品のある材料、部品
を使う物作り、一つの電力会
社管内に生産拠点を集中しな
い、原発の近くでの工場立地
は避ける等々。
ここで私たちが良く耳にす
る“ナンバーワン”よりオンリ
ーワン”が崩壊したことにな
ります。お客様は一つの会社
に依存することのリスクを嫌
うというほど今回体験したから
です。もともとオンリーワン
とは自分勝手な優越志向でお
客様の価値観とは無関係なも
のでもありました。

分社グループ 社長会開催

フォレスト総合ケア(株)
新社長候補平岡顧問(株)サテリット
矢澤新社長

株式会社サテリット
新社長に矢澤氏就任
フォレスト総合ケア(株)
次期社長候補に
平岡氏
平成23年4月20日(水)
（コートヤード・マリオ
ット銀座東武ホテルに
おいて今年度第1回目
の社長会が開催されま
した。

篠崎会長の挨拶が始まり3月31
日をもって退任した(株)サテリット
寫村忠前社長に代わって新社長に
就任した矢澤克弘氏（同社取締役・
49歳）から挨拶がありました。次
いでフォレスト総合ケア(株)平岡敏
雄氏（同社顧問・57歳）が次期社長
候補として挨拶されました。
事務局からは月次業績推移（3月
期及び通期）、分科会報告（2月22
日開催「経理・税務・金融部会）、震
災復旧融資・会計処理関係につい
て報告と連絡がなされました。

（2頁へ続く）

【お見舞い】

3月11日(金)に発生した東日本大
震災（東北地方太平洋沖地震）によ
り被害を受けた皆さまに衷心よりお
見舞い申し上げます。

分社グループ社長会

震災対策ガイドブック頒布 フォレスト総合ケア

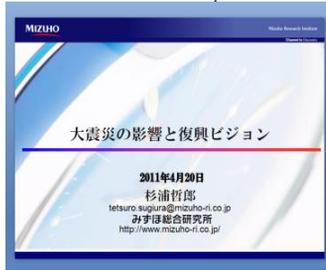
株式会社荻野社長より同社の地震保険加入者に対する保障実行等の報告と震災後の対応を詳しくまとめた小冊子「東日本大震災対策ガ

㈱大昌電子

震災被害状況報告

岩手県に工場を持つ株式会社大昌電子篠崎社長より東日本大震災で被害を受けた岩手工場の様子を詳細に説明していただきました。

「復興対応編」と「地震！グラフと来る前に」が頒布され、もしもの時の備えについて語られました。



★今回勉強会で使用されたみずほ総合研究所の資料は事務局にございます。ご希望の方には電子メールでお送りいたしますのでご連絡下さい。

【勉強会】

みずほ総合研究所チーフエコノミストの杉浦哲郎氏をお迎えし、『大震災の影響と復興・再生ビジョン』と題して勉強会を開催しました。この度の大地震による日本国内外の経済動向について解説していただきました。



分科会開催

経理・税務・金融部会

11社会



グループ各社より33名参加。



4月20日(水)コートヤード・マリオット銀座東武ホテルにおいて11社会が開催されました。出席社は事業活動を休止しているサンマレット(株)、ソリッドムール(株)をのぞく9社、社長会、勉強会に続いての参集となりました。

と今期の先行き、震災の影響、資金繰り、自社で抱えている問題・課題(設備の老朽化、若手の人材確保・育成...)などが話されました。



2月22日(火)ゆうぼうと(品川区・五反田)において経理・財務・金融部会の勉強会が開催されました。講師はグループ顧問の野村聡先生。「2011年3月期決算留意事項(内部監査の結果を踏まえて:...)」をテーマにグループ全社の監査結果から改善点を共通認識すると共に、来年度の税制改正点(会計・税務)について、また今後日本でも適用されるIFRS(国際会計基準)の動向について理解を深めました。

平成23年度 経営計画

【売上・利益目標一覧】

(百万円)

会社名	売上	利益
大陽工業株式会社	6,750	270
インテگران株式会社	2,350	50
株式会社大昌電子	21,500	550
セブンヒルズ株式会社	160	12
富士精密株式会社	2,200	110
丸忠デジタル株式会社	308	8
大金電子工業株式会社	2,100	30
株式会社幸大ハイテック	3,200	20
フォレスト総合ケア株式会社	62	0.2
ファンクマクトロクス株式会社	3,400	170
株式会社ダイテックノジーズ	4,500	90
株式会社富士コスモサイエンス	140	7
株式会社ウィーゴ	185	6
株式会社サテリット	114	4
株式会社トライチーム	1,300	39
日本フライトセーフティ株式会社	150	10
株式会社コダビット	120	2
株式会社ニューシステムテクノロジー	206	9
グループ合計	48,745	1,387

【新入社員数】

男性	女性
5	3
1	0
27	4
0	0
0	0
0	0
2	2
3	0
0	0
1	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
34	6

BUNSHA GROUP

新事業年度
スタート

分社グループ各社の代表取締役から今年度の目標・抱負等、経営計画を発表していただきましたのでご紹介いたします。

グループ全社

売上目標 487億円

経常利益目標 14億円

新入社員総数
(グループ計) 40名

インテگران株式会社

重点
目
標

人材の育成と若手の活躍の場を創る

保有技術の選択と集中

リスクマネジメント



代表取締役
関山浩一

東日本の大震災の影響はこれからも1年〜2年は続き、復旧、復興には相当の時間が掛かると思われます。この中で、特にインテگرانは復旧、復興に向けた装置、電源など社会インフラに関する受注の取り込みが重要になってまいります。また、夏季の電力不足に向け、生産体制の見直しなどを含めた対策を早急に講じる必要があります。一方でこれまで進めてきた事業の集中と選択を一層加速させることにより、業績及び財務体質の改善を図ってまいります。

大陽工業株式会社

重点
目
標

生産設備の充実と新技術開発の強化

低価格で高品質プリント基板の海外調達の実現

新事業(デマンドコントローラ)の稼げる態勢作りとその実現



代表取締役
酒井陽太

2008年9月のリーマンショック、2011年3月の大震災とデフレ下の日本は更に大きな出来事に見舞われ混沌とした状況です。明治維新、太平洋戦争にも匹敵する事態です。
緊急時にはそれに合った経営手法で全社一丸と成ってこの難局を切り抜けていこうと思えます。
また、当社製品の産業用インフラのプリント基板、FS装置カンパニーの放射線測定器、そしてESC O部のデマンドコントローラ等々で復興への貢献も担うつもりです。

セブンヒルズ株式会社

重点
目標

チームワークの構築

徹底した無駄の削除

全力での新規開拓



代表取締役
鎌内 勉

大震災の影響が大きい年度だと思えますが、当社の業種は、近年の環境ビジネスに対する注目が高まっているため市場の成長が益々期待できる最大のチャンスと捉えて、リサイクル品の収集拡販に務めてまいります。

前期に新規開拓を進めている顧客先を実績に結び目標を達成させます。

株式会社大昌電子

重点
目標

国内市場でのシェア
拡大と海外販売の強化

先端技術・特徴商品の
開発と超品質

栃木・岩手工場の主要
工程の共有化



代表取締役
篠崎尚利

『新たな発展に向けてスタートする年』〜今までの改革・努力を必ず成果につなげる〜

百年に一回の世界金融危機に対し、今年こそは：の矢先、千年に一回の規模と云われる大震災に遭遇しました。新たな発展に向けて試練の時。経営環境は強い円高で、日本の製造業は益々南下します。中国からベトナム、タイ、更にインドに向かう。国内のプリント基板市場は1兆円産業から5000億円へと縮小することが予測されます。当社が生き抜く為には、一段と市場のシェアを上げる。今までの守りの事業運営から目線を上げた挑戦、挑(いど)む姿勢が極めて重要と感じております。

丸忠デジタル株式会社

重点
目標

金型のトータルソリューションの確立

ハイブリッド金型の更なる開発、提供

お客様のフルサポート体制の強化



代表取締役
増島清治

当社は、プリント基板金型を国内一流メーカーに提供しております。本年度は国内ビジネス環境の変化に伴い、プリント基板関係では製造設備機器を含め、トータルなサポートを展開いたします。特に多層用治具板メンテナンスにおいては営業活動を全国に展開しオンラインワンを目指します。

また自動車用立体パネル金型では、三次元形状フォーミング金型の新たな業界、お客様にご提案を進めてまいります。

形状加工の分野では、当社開発のハイブリッド加工を国内外のお客様に紹介すると共に販売してまいります。

富士精密株式会社

重点
目標

生産効率の向上

創造力の養成

信頼される企業への
追求



代表取締役
山田敏明

金融危機という世界的な津波にのみこまれ、ようやく経済も落ち着きを取り戻し、今後の回復を予想していた矢先、東日本を襲った未曾有の大震災によって大打撃を受け、今後日本国内だけではなく世界を巻き込んだ混乱が予想されます。

電力問題、物資不足又原油の高騰等により、原材料の価格上昇も懸念されます。

この環境下で当社は平成21年度と同様に「変革」を再度掲げ心機一転この危機を乗り越えるべく全社一丸となり目標達成に邁進いたします。

株式会社幸大ハイテック

重点目標

守秘義務と安全・安心

変化対応力

自動化生産システム



代表取締役
眼目 毅

「見て、感じて、変化し、常に進化し続ける」
世界の産業構造が変化する中であって、競争の土俵が変化しておりこの変化を好機として捉えるためには、機器の省エネ性能に止まらず、人々の暮らしそのものを変えていく枠組みを提案していく必要がある。
当社としましては「(メカトロ+制御技術+組込ミドルウェア)×通信、センサー」総合技術力」の追求で提案していきます。

大金電子工業株式会社

重点目標

人材育成

受注拡大(成長分野・ファブレス)・サービス拡大

原価低減・品質保証



代表取締役
本間 修

当期(39期)は成長分野の受注拡大・人材育成を柱とした事業基盤の強化を重要方針に置きますが、同時に節目となる40期を迎える為のステップの期と認識しています。
今や社会環境、経済環境、経営環境が変わり、仕事環境も変化していく中、経営の原点に振り返り事業を継続し発展させる為の基本を確実に習得し、様々な経営課題を克服しなければなりません。
マネージメントの一層強化に努め課題を克服します。「過去から学び、今のために生き、未来に対して希望を持つ」アインシュタインの名言ですが、今の時代を示唆するものと心得ます。

ファナックマグトロニクス株式会社

重点目標

競争力の強化

業務効率化

企業力の向上



代表取締役
菅 正彦

今期のスローガンは”グローバル競争力“です。
当社顧客の主要製品は工作機械、産業機械であり、その大部分が輸出向けの機器です。低価格化の要求、現地仕様への対応、製造の現地化などの新たな要求に晒されています。またその広がりの中で、海外の受託製造会社との競争が起ころなど、大きく視点を変えて今までとは異なる対応をして行かなければなりません。震災の影響により、一部の部品、材料の入手に苦慮しておりますが、競争力のある強い会社へ進化するためにグローバル化を意識した”チェーンジ”を実行して行きます。

フォレスト総合ケア株式会社

重点目標

保険の安心プラン提案とサポートを迅速対応する

事業内容を絞り効率を上げ、原価低減を図る

新規事業(商品販売、経費節減)事業化を目指す



代表取締役
荻野尹武

「安心の提案と事業再生の継続」
①保険は、お客様に無形のサービスを提供、安心プランの提案(法人、個人)とサポートは迅速対応を行う。
②事業再生を継続して、人材派遣・建設は、全般業務からメディア・カルクリーニング・営繕・エコリフォーム主体に業務を絞り、企画提案・原価低減を図りお客様満足度の営業姿勢、新規事業は、業務用家電のインターネット会社へ卸売及び経費低減のプラン提案(成功報酬制)を立ち上げる。
③小人数・多業種を、従業員みんなが協力しあい、お客様最優先を掲げ、無形の利益を提供いたします。

株式会社富士コスモサイエンス

博物館市場への販売分析
営業、自動納品の拡大

一般市場の顧客開拓

経費削減の推進

重点
目標



代表取締役
佐藤龍治

平成23年度は、東日本大震災による東北地方の壊滅的な被災、関東地方の計画停電、西日本の観光の自粛ムードの影響で、受注の減少が避けられません。このため、営業活動の重点を関東および西日本に置いて受注を確保し、経費削減を進めて利益の確保を図って参ります。こんな時こそ明るさと夢を失わずに、社員を大切に、全員の力を結集していきたくと思います。

株式会社ダイチューテクノロジーズ

受注・売上・利益の
確保、拡大

事業計画・実績管理の
徹底

品質保証体制の強化

重点
目標



代表取締役
眞道保美

【スローガン】
目指せハイ パフォーマンス
テクノロジーズ カンパニー

【方針】
開発主体型の企業を目指す
・開発力の強化
（要員強化、若手登用、標準化、開発プロセス改善）
・開発主体型の組織
・開発製品の開発、販売、自社製品の開発、販売、サービスを行う
・Allegronシリーズの開発、サービスビジネス推進
・販売活動の強化
（増員、HP、Web...）
・コアテクノロジーの蓄積を行う
・ストレージ（HDD、SSD）、Test技術、メカ技術、システム技術

株式会社サテリット

収益確保へ向けての
受注体制の強化

社内体制の再構築

世代交代への
取り組み

重点
目標



代表取締役
矢澤克弘

今期は、3月に発生した東日本大震災の影響もあり、先行き不透明な状況であるとともに、経営環境は非常に厳しくなっていくものと思われまます。当社としましては、この状況を勝ち抜いて行くために、社内体制の再構築を進めていくとともに、将来を見据えた人材の育成を行うことにより社内の活性化を図っていきたくと考えています。また、営業面におきましても、受注量の確保を最優先に考え、目標達成に向けて邁進していきます。

株式会社ウィーゴ

現場から人材育成

外販小回り
新しい挑戦

多品種、多能工による
改善

重点
目標



代表取締役
松澤 悟

【目標】
①現場現実からのスキルアップ向上
②工場の知恵を活かした生産体制の改善
③大規模災害による経済社会情勢の中で共存共栄新たな生き残りへの挑戦
何が出来るかではなく出来ない事を可能にする
日々事業の改善に努め協力しい事業の発展に努めます

重点目標

優秀かつ誠実な訓練で、訓練生の信頼を得、確実に卒業生の就職を支援して、その評判を上げる。そのことが顧客確保の最大の近道であると、社員意識を徹底させる

確かな技術と経験に合わせ、基本に忠実な運航で安全を確実なものとし、無事故記録を更新

今年安全検査の年でもあり、体制をより一層充実させ、今まで以上に安全性の向上を図る



代表取締役
山田元昭

航空業界に優秀な操縦士を送り込むことにより、航空業界の発展を基礎から支える

【スローガン】

本業である操縦訓練では、官民を問わず、訓練生を確実に卒業、就職させることにより、この業界での優秀のトップを目指します。ヘリコプター操縦士の需要が最近増加傾向にあるため、より一層この分野に注力するとともに空撮、遊覧において、新鋭機導入により更なる新規開拓にも積極的に取り組んでいきます。

重点目標

顧客の深堀と拡大への挑戦

生産効率化への挑戦

信頼される企業への挑戦



代表取締役
菅 実

「変革」で4つの目標にて遂行する計画であります。

第一は顧客の深堀と拡大への挑戦であり、それは現顧客の深堀と新分野、新規顧客の獲得です。

第二は生産効率化への挑戦です。施策として原価管理の徹底、回転率向上等の総合コスト管理です。

第三は信頼される企業への挑戦で提案型企業とのパートナーシップの追求です。

第四は地球環境保全活動の推進です。

結論的にお客様に満足していただくため、全社一丸となって考え、方・手段・行動の全てを変革し、目標を貫徹する所存であります。

株式会社ニューシステムズ テクノロジー

重点目標

ソフトウェア応用技術への対応力アップ

プロジェクト管理体制の強化

コスト低減を意識した効率化の推進



代表取締役
熊谷 修

大震災、放射能漏れなど想定外の災害が起こっており、日本経済のみならず、世界経済にまで多大なインパクトを与えております。このような状況下では何が起これども不思議ではなく想定することに限界があることから、何が起これども慌てずに、足元を固め、本業に集中し、しかし変化にも柔軟に対応しようと考えております。また情報はより重要になると考えていますので、迅速かつ適切な情報収集に努め、よりベターな選択をする事により、利益の積み上げが出来るものと考えております。今期スローガンは“選択と集中”です。

株式会社コダビット

重点目標

“変化に強い人材”を育てる

“Independence2013”の推進

生産革新



代表取締役
眼目 毅

複雑化する現代において、変化に強い人材を育成するには、多種多様な専門性をもつ者同士の横のつながりが欠かせない。専門性だけではなく、さまざまな価値観を理解し統合する人材が必要とされている。生管、生技、製造が横断型プロジェクトという型で「自ら調べ、自ら考え、行動する」人材を育成する理念で視野の広さや、チームワーク、リーダーシップ、自己管理能力のついた変化に強い人材を育てる。



東急多摩川線・武蔵新田駅から線路沿いに徒歩5分、分社グループ酒井陽太代表が理事長を務める「ゴールデン鶴亀ホーム」が、アットホームな雰囲気で行んでいます。此の場所こそ分社グループ創始の地であります。開所したのは2000年（平成12年）4月、先代の理事長故酒井邦恭氏が考える理想のホームは、それから11年経過した現在でも『明るく楽しく過ごせる毎日』という基本理念を念頭に日々介護サービスをご提供しております。左の写真は敷地内の北東に設置されている記念碑であり『人の心を大切にす
る経営を此の地で始めた』という分社グループ経営の基本理念が刻まれています。

ホームの名称は酒井陽太理事長と東京大学名誉教授で言語学者の柴田武様との会話の中で生まれました。「ゴールデン」は充実した光り輝く人生を、「鶴亀」は長寿を表しています。右のレリーフは正面玄関に設置されているもので、漆芸家の東日出夫先生の作品です。

現在の利用者さんは2階3階の居室に80名及びショートステイ（1週間程度の滞在）が10名、1階のデイサービス（通所介護）が1日32名程（火～土）ご利用されています。

ゴールデン鶴亀ホームでは人事院、教員等々広くボランティア研修の受け入れを実施しています。分社グループでも新入社員教育の一環として（株）大昌電子が先陣をきり実施しています。本年度は大陽工業（株）の新入社員8名が研修を行いました。それぞれが実生活では経験できない貴重な体験の中で社会貢献について、また命の尊厳について等々多くのことを学ぶ事が出来たようです。（下記写真1～5）



平成23年4月の予定表

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		5 墨絵 2F	6	7	14:00~14:30 1 大正琴 2F	2
3 つるがわ フラワーズ 2・3F 14:00~15:00	4	11 オズくん ホーム授業 1F 14:00~15:00	12	13 歌の丸印 3F 14:00~14:30	14	15
10	17	18 1F お茶会 15:00~15:00	19 歌の丸印 2F 14:00~14:40	20	21 音道 2F 14:00~15:00	22
26	25 オズくん ホーム授業 1F 14:00~15:00	26 墨絵 2F 13:30~15:00	27	28	29	30



(写真1)



(写真2)



(写真3)



(写真6)



(写真7)



(写真4)



(写真5)

写真1：利用者さんの洗濯物を毎日各居室まで運んでいます。

写真2 } 食後の食器を後片付けしていま
写真3 } す。

写真4 } 利用者さんと傾聴中
写真5 } (ちょっと緊張しています)

写真6：食後のひととき（毎日楽しみにしているテレビドラマを見えています。）

写真7：デイサービス等の送迎用リフト付バス

私たち社会福祉法人白陽会、職員一同は当法人の理念である「明るく楽しく過ごせる毎日」を念頭に於き、介護が必要な高齢者に対し、様々な介護サービスを提供しています。

介護老人福祉施設ゴールデン鶴亀ホームでは、ご利用者の生活を間接的に支援していただけるボランティアを積極的に受け入れています。内容は傾聴・おしぼり巻き・食後の後片付け・レクリエーション等です。平成22年度は、延べ約1000人の方々に協力していただきました。

ご利用者に安らぎの時間を提供できるよう、これからも職員一同努力していきたいと思ひます。（介護主任さんより）